

施食会法要のお知らせ

「お盆」の正式名称は「盂蘭盆会(うらぼんえ)」。そのもとになったお経が『盂蘭盆経』(うらぼんきょう)。

『盂蘭盆経』によると一一釈迦十大弟子の一人である神通第一の目連尊者が亡くなった母親の姿を探すと、餓鬼道に堕ちているのを見つけた。喉を枯らし飢えていたので、水や食べ物を差し出したが、ことごとく口に入る直前に炎となって、母親の口には入らなかった。哀れに思って、お釈迦さまに実情を話して方法を問うと、「安居(夏期修行期間)の最後の日(旧暦の7月15日)にすべての比丘(修行僧)に食べ物を施せば、母親にもその施しの一端が口に入るだろう」と答えた。その通りに実行して、比丘のすべてに布施を行い、比丘たちは飲んだり食べたり踊ったり大喜びをした。すると、その喜びが餓鬼道に堕ちている者たちにも伝わり、母親の口にも入ったという。——この話に基づいてお盆に「施食会(せじきえ)」＝かつては「お施餓鬼(おせがき)」が行われるようになりました。

この話の中では目連尊者の亡くなられたお母さんが餓鬼道に堕ちられたということから「うちのご先祖さんが餓鬼道に堕ちられたとでもいうのですか」と思われる方もあるかもしれませんが、どこのどなたかは知らないけれど餓鬼道に堕ちられて飢えに苦しんでおられる人々を救済するために「施食会」という法要を営んで餓鬼道の方たちを供養すると、施主は寿命が延長し、その功德により仏道を証得することができる(この部分は阿難尊者が主役の『救拔焰口陀羅尼経』による)といえます。その功德を施主自身がもらうのではなくて、亡くなられたご先祖様にプレゼント(回向)するのが「施食会」なのです。

少しややこしいですが、単純に言えば、餓鬼を救済すると功德がある、その功德をご先祖様に回向するのが「施食会」なのです。お盆シーズンの先祖供養の決定版なのです。

コロナ禍の特別体制

さて今年もコロナ禍。オミクロン株の派生型「BA5」が増え第7波かという状況にあります。今年も、法要は例年通り厳粛に行いますが、「普通施食」は「三密」を避けるために、お参りなしで行います。塔婆は11時ごろから夕方まで、小堂にてお配りいたします。合同施食と特別施食は人数が少ないので通常通りお参りいただきお勤めさせていただきたいと思ひます。

コロナ禍での特別な体制ですので、ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

2022(令和4)年8月20日(土) 午前10時～

きりとり

2022(令和4)年度施食会(おせがき)申込用紙

【志納金を添えて申し込んでください。振込用紙でお申込の方はこの用紙は不要です】

申込者住所	〒□□□—□□□□ (市・町)			
ふりがな 申込者氏名	TEL ()			
供養したい方の戒名、または〇〇家先祖代々をお書き下さい				
種類	内容	時間	志納基準	志納金
普通 施食会	〇〇家先祖代々または故人を供養します。 (1度に多人数の供養をします。)	10:20～ 10:40 ごろ	3千円以上	円
合同 施食会	故人の〇回忌や初盆等の方を合同で 一座をもうけて供養します。	10:40～ 11:00 ごろ	1万円以上	円
特別 施食会	初盆の方を特別に一座もうけて、ねん ごろに供養します。(昨年7月から亡く なられた順に1軒ずつ行います。)	11:00～	5万円以上	円
添 施食会	上の特別施食に添えるかたちで兄弟・ 親戚などでさらに一座もうけます。 (単独ではできません。)		2万円以上	円

不明の点はご遠慮なくお尋ねください。 〆切り 8月15日(水)